



◎ゴキブリ退治に役 お互いに仕事を持ち忙がしい忙がしいの四人の集いです。年に二度春秋にゴキブリ退治の団子作りをし、部落の希望者に配布して居ります。

◎気の合った日が例会日 時々寄っては減塩料理を作ったり、折りにふれては健康体操をしたり健康管理の話や四方山話に花を咲かせ時間の経つのも忘れ話し込んで、ストレスの解消に役立させています。これと云って何のとりえも無いグループですが気の合った者同志の集りで少しでも向上出来ればと思っています。

◎明日に向かって希望を 今年は実現出来るかどうか分かりませんが染色に取り組んでみたいと思っています。

油谷町の古文書

(その十五)

川尻捕鯨の取引先

ふすまの下ばりから(三)

村田 菊雄

一、鯨の皮、肉、赤身、骨粉、歯、内臓、鰭、鰭等。購入したものは、塩・酒の粕・米・たばこ等。取引先は、唐津の万屋治助・横浜屋惣吉、博多の対馬屋五兵衛、芦屋の加登屋惣吉、下関の魚屋八地平右衛門・島屋伊兵衛・堺屋五兵衛・因幡屋、長府の長府屋清兵衛・前田屋、萩の長嶺康太郎・今秋宗十郎・村岡幸三、仙崎の田中作右衛門、秋穂の大黒屋、阿川の又兵衛、通の野村庄治郎安岡(屋号不明)等の名が見受けられる。この文書は齊藤家のもので、一大経済基地でもあった川尻の活況を具体的に知ることができる。

上の文書は、鯨の赤身千七百六十五斤余の売仕切書である。西の三月十二日、唐津の萬屋治助が五十六両で買受けている。この四年の確定は困難であるが、いずれにしても五十六両は、相当高額の取引高である。鯨を一頭とれば七浦がにぎわうと言われ、いろいろの役割分担を持つ乗船者二百五十名、陸上勤務者百五十名、計四百以上の活動は目ざましいものがあつたと想像できる。

十年ばかり前、浄念寺立替の時いたいたふすまの下ばりから見つかったもので、断片を含めて